

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 3月 12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204276		
法人名	有限会社ネクストライ		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	広島県広島市中区千田町2丁目8-22 (電話) 082-545-5255		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470204276-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年3月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域の社会資源との交流に力を入れており、毎月1回近隣保育園の園児とグループホーム入居者との世代間交流を行い、地域の活性化に取り組んでいる。
グループ会社の薬局を通じて、薬の管理や服薬指導を行っており、薬剤師による服薬管理に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

便利な街中から一步入った場所に位置する同事業所は、管理者の”グループホームきらら”に対する想いが熱く、理念にある「その人らしさを大事に、日々明るく楽しく」を念頭に、利用者に対しては、自宅の続きで、家の様な居心地の良い空間を、大切にしながら支援している。更にケアプランを基に、そこから様々な支援を検討し、実践に繋げる取り組みがされてる。例えば、利用者の残存能力をどう引き出すか、職員と共に話し合い工夫しながら、利用者が能力を発揮出来る様、実践方法を共有しながら取り組む努力が感じられる。職員は、働き方への理解や、利用者への係り方等を通じて、管理者としっかりした信頼関係が確保されている。また各種研修への参加や資格取得に対しても、母体である有限会社ネクストライ（保険調剤薬局）は前向きに支援している。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念「その人らしさを大事に日々明るく楽しく」を基に、職員全体でケア目標を作成し、実践している。ケア目標「私たちは利用者のニーズを把握し、サービス提供及び記録をします」「私たちは笑顔で元よく挨拶します」	法人理念は、設立当初より変わらず、職員は共有し実践に繋げている。更には2年に1度目標の見直しを行いながら、現状に即しているかミーティング等で確認しサービスに努めている。また困難な支援の場合は、理念に戻って実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃活動への参加や地域の行事へはできる限り参加を入居者・職員で行っていたが職員状況により現在参加できていない。 3年前からの近隣保育園児と入居者の交流も月に1度、定期的の実施している。日頃は、地域のスーパーへ入居者と散歩を兼ねて出かけている。	開設時に町内会に加入しており、積極的に地域と繋がる努力がなされている。また地域の行事(秋祭り等)や月1度の午前中に、近隣の保育園児が訪れて、歌を披露するなど利用者は楽しみ事の1つになっている。職員は顔馴染みを作る等、地域とのつきあいの大切さを理解しながら、支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の社会資源である近隣保育園と施設の交流を月に1度、定期的の実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者の状況報告や施設の取組み・行事等を報告し、助言をいただいている。また、地域の行事開催予定をお聞きする情報交換の場としている。	会議は定期的に行われている。会議に参加する地域包括センター担当者や関係者が、支援の取組み状況、事業予定を聞き取ったり、アドバイス等意見交換を行っているが、会議の核となる家族の出席が少なく、遠隔地在住等による参加が困難な状況がある。	会議への参加者は、利用者や家族、事業所が主軸となって取り組む事が大切であるが、家族が会議に出席する事が余り見られない。今後は様々な困難な状況は有るが、例えば開催日や内容を検討する等、更なる取組みに期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の開催参加案内や開催後には内容報告を行っている。運営等について相談や助言は随時行っている。	市町とは、運営推進会議の議事録を提出したり、高齢者虐待防止法等の研修会に参加するなど繋がる努力はしている。また職員が認知症アドバイザーの資格を有し、市町から要請があれば出掛けられる準備は整っており、常に協力関係を築く取組みに努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行わない取り組みをしている。しかしながら、階段へとつながる扉は施錠対応している。また、玄関も道路に面しているため施錠している。	職員は、外部研修に参加し、その後伝達研修を通して、言葉の拘束を含め全員が拘束しないケアを理解し実践に繋げるよう努力している。困難な場合は、出来る限り拘束以外の代替案を摸索し、取り組む姿勢が有る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議にて過去の事例を用いて勉強会を実施。各職員に自身の提供してるケアを見つめ直す機会としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議にて資料の配布を行い、勉強する機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には分かりやすい言葉で説明を行い、随時不明な点や不安な点を伺い説明対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関へ意見箱を設置し、意見をいただけるようにしている。また、面会簿にもご意見を記入していただける欄を設けている。	近隣に住む家族が少なく、来所時に直接意見を聞く機会は限られている。遠方の家族には、月に1度手紙を出したり、家族会の開催時に利用者家族の意見・要望を聞く機会を設け、把握しながら運営に反映させる努力を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>各会議にて運営に関する職員の意見を聞く機会を設け、必要に応じて反映させている。</p>	<p>年に1度個人目標を立てる会議で要望を伝えたり、フロアー職員ミーティングや全体会議で提案をする等、職員は意見をいう機会が確保されている。例えばキッチンの収納に関して、棚や物置の必要性を伝え改善に繋げたりしており、管理者は意見を反映させながら運営している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務表作成時は各々の希望休を聞き、反映した勤務表を作成している。また、研修に参加希望があれば勤務として研修へ参加してもらっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修、外部研修問わず、積極的な研修参加を促している。今年度は職員状況によりなかなか参加が出来ていない状況である。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループホーム事業者交流会へ参加しており、他事業者との交流を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>アセスメント作成にあたり、面談を行い、本人の希望及び家族の希望を伺い、ケアプランへ反映している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居のあたり、見学時や契約時、面談の際に要望や質問へ応えるようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要時には他施設の紹介やその他の介護サービスの相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者のできることは利用者の残存機能を維持できるよう自身で行えるよう促している。 それぞれが役割をもった生活を送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月手紙を送付し、日々の生活の様子を伝えている。 家族参加行事、納涼祭への参加を促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会については制限をせず、随時面会可能と案内をしている。 利用者の希望があれば外出支援をしている。	日常的には散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、近くにある保育園の園児とは顔馴染みになっている。面会時間は特に設けず、夜10時頃利用者の寝顔を見に訪れる家族もいる。アクセスの良さも活かし、遠方から月1度、家族が訪問し共に食事に出掛ける利用者もいる。職員は途切れない関係の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員会議にて個別ケアの議題を挙げ、対応を協議し、共同生活がうまくできるよう対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時には、今後困った際相談に応じることを案内させていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画書更新時にはもちろんのこと、ADLの変化や本人・家族の意向が変わった際には再アセスメントを行い、更新している。 意向の聞き取りが困難な場合は日々の生活より推測し、立案している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方を、日常生活の中で気付いた事柄等、個人記録に記載し意向を共有している。困難な場合には、ケアプランや生活歴を参考に職員が話し合い、その人に寄り添った支援(例えば、思いを汲み取り日経新聞の購読、プリンターの屋外設置)を検討し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント作成にケアマネ・管理者が本人・家族・関係者より生活歴等聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の健康状態を把握し、現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネが中心となり、本人・家族・関係者等の意見を反映し、介護計画書を作成している。	介護計画の見直しは、定期的に行われている。モニタリングは本人、家族の意見を中心に関係者が、計画を作成している。暮らし方や状態の変化がある場合は、ケアプランに全て記載している。また評価を行い見直しが必要な場合は、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に気になることや変わり等を記録している。 職員の情報共有は、申し送り表を使用し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要に応じて他のサービス利用につなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣住民（入居者の知人や友人）の来訪や地域の保育園との交流により地域資源との協働を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設協力医への主治医変更の意向確認を契約時に行い、適切な医療が提供できる体制作りをしている。 随時、関係者と連携をとり受診や往診を行っている。	各ユニットに其々協力医がいる。入居前からのかかりつけ医に受診する利用者もおり、他科受診も積極的に支援している。必要な利用者には歯科の訪問受診も行っている。事業所には常駐の看護師と、更に訪問看護と共に、医師の下24時間対応が確保されている。投薬管理は薬剤師が2週間に1度訪問している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週1回の訪問看護により、健康管理や相談を専門的視点から助言・対応をしていただいている。 また、平成28年11月より看護師1名を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院先の相談員はもちろんのこと、家族様との連絡を定期的に行い、再入居に向けて準備している。また、定期的な面会にて情報を病院関係者より提供していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医や訪問看護師、家族様と相談・確認しながら随時対応している。また、連絡ノートや申し送り表にて職員間の情報共有を行っている。	入所時に家族等に説明し同意書を得ている。管理者や職員は看取りの経験があり、重度化した場合、改めて家族と話し合いを行い、方針を共有しながら支援する体制がある。家族は泊まりながら付き添い、職員は研修等を通してチームで支援出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、緊急時には参照しながら対応できるよう整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を行っており、災害時には警備会社や近隣住民にも協力していただけるよう連携をとっている。地域の災害時避難訓練にも参加している。	事業所は地域と”災害時地域支援”の意思確認は行っており、協力を得る努力がされている。年2回の消防訓練は利用者と共に行われ、防災マップで、地理的環境は把握し避難場所も確認している。また備蓄(1日分)も確保し、職員は消防署の指導の下研修を受けている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護について勉強会をミーティング時に行っている。	利用者一人ひとりの人格を把握するために、その人の生活歴を知り、言葉がけにも配慮しながら日々の支援に努めている。職員はミーティング等で、プライバシーについての対応や知識を再確認し、またその定義のために言葉がけ等で意識付けを行い、情報を共有しながらサービスに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望はできる限り引き出し、自己決定できるよう声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先になることもあるが、利用者様に寄り添い、個々のペースで過ごせるよう支援している。 食事の時間や入浴の時間をずらしたり、早めたり調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日着る服の選択や整容等できることはご本人にしていただけよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	軽作業（食器洗いや食事の盛り付け、皮むき、お茶の準備など）や買い物等、残存能力を活かしつつ楽しい食事となるよう職員が声かけ、支援している。	毎日の食事は、食材業者が、季節行事食（ひな祭り・節句・お正月等）も含め献立を作成して配達し、職員が調理している。更に週2回朝食にパン食を取り入れ、食事環境に於いても、テーブルごとに利用者の配置を考慮されている。外食も年に数回（コーヒー、スイーツ等）希望を聞きながら企画し楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>業者を通じて、管理栄養士の献立に基づき食事の提供を行っている。利用者個々に水分の促しや食事量の記録、食事形態の調整をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行い清潔保持を促している。希望者には訪問歯科を調整し、診察している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>定期的な声かけやトイレ誘導により排泄を促している。排泄時間を記録し、誘導時間に反映させている。</p>	<p>全てのトイレに、ファンレストテーブルを設置し、利用者は勿論介助する職員も活用している。夜間は必要な利用者にポータブルトイレを用意し見守りながら支援している。また立位困難な利用者が、家族の協力でトイレで座位を保ちながら排便出来る様になり、潜在能力を引き出す等、現在に至る支援の事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取や運動を促し、自然排便できるよう取り組んでいる。排便コントロールについては、主治医や訪問看護師、施設看護師と連携している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は基本的には週2回曜日を固定しているが、利用者の希望があればできるだけ入浴支援を行っている。</p>	<p>ゆっくり入浴を楽しんで貰うために、入浴環境にも気配りを行い、皮膚の弱い利用者にはシャンプーを手に付けて洗う等、個々に合った対応を行っている。更に医師の指示で入浴後に軟膏を塗ったり、家族の希望でローションを使用する利用者もいる。職員は利用者一人ひとりの情報を共有しながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間にとらわれず、利用者が自宅で生活しておられた生活リズムで施設でも過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師による薬の管理を行っており、安全な服薬を支援している。症状等の変化があれば、主治医や訪問看護師、施設看護師と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	行事や日々の散歩や買い物等の外出により気分転換をしていただけるよう支援している。洗濯物たみや食器洗い等、個々の残存能力を活かし、施設で役割をもった生活を送れるよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望や認知症の症状(周辺症状)により散歩や買い物等の支援を随時行っている。季節感を味わっていただけるような季節行事を計画し、定期的に外出支援を行っている。	利用者の希望や体調を考慮し、職員は外出のタイミングを計っている。日常的には近くに散歩や買い物に出掛けたりもしている。また少し遠方には、計画を立て季節に応じて(春は花見に秋はマリーナポップ)ショッピングとドライブを兼ねた外出を楽しむ支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭については原則、家族様もしくは施設にて管理をお願いしている。認知症状や利用者の希望により自身で所持されている方もおられる。施設管理している金銭については必要時には随時金庫より出金している。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人希望がある際は、家族への電話や手紙を準備してる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に応じた掲示物や装飾を行い、季節感を演出している。 湿度は40%以上、室温は25度を保てるよう調整している。 ソファを置いてくつろげるようにしている。</p>	<p>リビングは季節の花や、手作りされた作品が程よく飾られている。廊下の中ほどには二人掛けのソファが置かれ、利用者が座っておしゃべりや休憩場所として、利用できるよう配慮されている。職員は利用者が歩く動線に、危険が生じないようにフローアを整理し、常に気配りしながら支援している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事以外は利用者の所定位置を設けず、過ごしやすい場所を提供している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居契約時には、今まで使ってきた慣れ親しんだものを持ち込んでいただき、心地よく過ごせるような居室作りを勧めてる。</p>	<p>居室の入り口は花が描かれた表札が掛けてあり、利用者が確認し難い場合は、家族に了承を得て名前が掛けてある。部屋は其々の家族の写真や、手作り品が飾られており、特徴ある自分らしい暮らしがある。またドアを全て締め切るのが嫌な利用者には、少し開けて安心して過ごせる様取り組んでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの配置や環境整備により、利用者が安全に過ごせるよう配慮している。</p>		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームきらら

作成日 平成30年3月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議への参加者は、利用者や家族、事業所が主軸となって取り組むことが大切であるが、家族が会議に出席することが余り見られない。	運営推進会議に「参加したい、話を聴いてみない」と思っていただけのような会議内容や講習会、有効な情報発信の場としての取り組み企画を行い、入居者・入居者家族に毎回参加していただく。	今後は、様々な困難な状況はあるが、例えば開催日や内容を検討する等、更なる取り組みを行う。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。